

鉄道ピクトリアル

2010年1月号増刊 Vol.60 No.1 通巻No.829

<特集> 小田急電鉄

■表 紙 ロマンスカー競演 MSEとVSE 焼田 健
入生田 2010-8-16

■カラ一

Let's enjoy 小田急 (1~7・168~169ページ)

小田急の保存車両/長野電鉄のHiSE (8ページ)

小田急の直通運転(165~167ページ)

佐野嘉春・沼尾吉晃・河原慶明・大沼一英・花岡 誠

松田 巧・早川昭文・今井清一・山口大助・飯塚卓治

大里信之・杉崎健一・澤木良直・真鍋裕司

松本英一郎・千代村智之

天然色の記憶 (170~171ページ) 長谷川 明・岸 孝・伊藤 昭
昭和20年代後半の小田急沿線案内 (172ページ) 坂戸 直和

■グラフ

絵葉書が描く昔日の小田原急行鉄道、箱根登山鉄道 白土 貞夫 81
高松吉太郎作品に見る昔日の小田急情景 構成:編集部 86
1950年代の小田急電車アルバムから 伊藤 昭・伊藤威信 88
小田急新宿駅の変遷 構成:編集部 90
多摩線開業の頃 構成:編集部 92
小田急の貨物列車回想 構成:編集部 94
昭和の残像 思い出のモノレール線 構成:編集部 96
あの日、あの頃 小田急の情景 (173~183ページ) 構成:編集部
70年代の小田急を象徴する通勤車

Series 5000 & 9000 構成:編集部 184

■本文

今月の話題: 小田急電鉄	編集部	9
総説: 小田急電鉄	藤田 謙	10
小田急電鉄の鉄道事業を語る	嶋崎章臣・今城光英	17
営業設備とサービス	野田 健一	24
近年の箱根観光輸送	佐藤 寛之	28
駅務、乗務区のあらまし	近藤和弘・猪原亜紗	34
輸送と運転 近年の動向	田島 寛之	38
車両総説	丹 克暉・大路弘幸・龜井 進	49
総合車両所、検査区の概要	村山 敏郎	59
線路と保線	飯野 康之	69
電力設備の概要	大津 俊成	72
信号・通信設備の概要	澤田 和巳	76
東北沢—和泉多摩川間複々線事業の展開	宮田 浩平	97
和泉多摩川一向ヶ丘遊園間改良工事について	西山 芳雄	103
小田急の車両にかかわった日々	中林 見	105
5000形、9000形の記録 1970年代の小田急通勤車	岸上庸次郎	109
小田急とともに		
—スジ屋になつた陶山周保氏の小田急時代—		118
「出発進行! 圧力5」 乗務員室から見た昭和の小田急	川島 常雄	126
先行先表示板とのおつき合い—自分史の中に見る△と□と○—		
	赤石 定次	135
小田急の貨物車と貨物輸送	澤内 一晃	140
ロマンスカーの夜明け前	鈴木 重久	148
1960~80年代の小田急回想	山下 和幸	152
沿線に住んで20年、江ノ島線の変化を振り返る	寺西 知幸	158
小田急車両 音と色	中山 嘉彦	189
固定編成 組み替えの記録	橋本 政明	192
小田急電鉄 列車運転の変遷とその興味	杉田 弘志	204
小田急電車全線歩き乗り記	根本 幸男	220
「明日の小田急」ファン架空座談会	生方 良雄	226
小田急電鉄 現有車両プロフィール2010	岸上 明彦	241
編成表	資料提供: 小田急電鉄㈱	296
現有車両歴表	作成: 岸上明彦 資料提供: 小田急電鉄㈱	300
現有車両主要諸元表	作成: 岸上明彦 資料提供: 小田急電鉄㈱	310
後部車から		319

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット: 松本一雄

小田急電鉄

小田急電鉄は東京の副都心 新宿を起点に東京都の西南部から神奈川県中部を縦断し、箱根、江の島方面への路線網を展開する大手民鉄である。路線は小田原線82.5km、江ノ島線27.4km、および多摩線10.6kmの3線、計120.5kmで形成され、一日約196万人を輸送している。箱根登山鉄道、JR東海御殿場線、そして都心方の代々木上原から東京メトロ千代田線に、それぞれ直通運転を実施しており、大規模な住宅地や大学が多数立地する沿線の通勤・通学輸送とともに、箱根を中心とした観光輸送が小田急の特徴となって、イメージ構成の中心を成している。

歴史的には1923(大正12)年に創立の小田原急行鉄道により1927(昭和2)年4月、新宿一小田原間開業が最初であり、戦時中の統合による東京急行電鉄時代を経て、小田急電鉄が1948(昭和23)年6月1日に設立され今日に至っている。2008年度の鉄道輸送人員は717,211千人、資本金は603億5900万円、本社事務所は東京都新宿区西新宿1丁目8番3号、従業員は3,485人である。

近年における小田急の話題は、進捗する東北沢—和泉多摩川間の複々線化事業と、50000形VSEおよび60000形MSEといった新型ロマンスカーのデビューであろう。複々線化は梅ヶ丘—和泉多摩川間がすでに完成し、目下北沢付近の地下4線化工事が行われている状況で、早期の完成が待たれる。一方、特急車についてはVSEの就役により、箱根の魅力がいっそう引き立てられ、初の地下鉄直通ロマンスカーとして注目を集めたMSEとともに躍進する小田急の象徴となっている。安全対策はもとより、駅をはじめ沿線諸施設の整備も積極的に行っており、今後の展開が楽しみな民鉄である。

TETSUDŌ TOSHO KANKOKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan

今月の話題